

てんてんけん

市川を▶

自転車快適都市に



車中心から人中心の街づくり。そのために自転車の活用をご提案

1. 市川の中心部に自転車通りを
2. 行徳の生活道路をゾーン20に



てんてんけん

てんてんけん



自転車天国研究会

事務局 市川市南大野3-22-25

世界の潮流 車中心から人中心の 街づくりへ



深呼吸するパリ

ウォーカブルな都市づくりを目指す
パリは交通手段分担率で徒歩60%と、もともと徒歩に合った街

パリにクルマが増えすぎた。
2014年にパリ市長に就任したイダルゴ氏は、車を減らし街路で歩行者を優先するプログラムを実施、並行して道路空間の再配分を進めた。

写真はパリ中心部のリヴォリ通り。これにより3車線あった車路の2車線は、自転車路に振り分けられた。

車中心から人中心の街づくりへ
パリがウォーカブルなら

市川は自転車快適都市

もともと市川は自転車の利用が便利だから

●コンパクトな住宅都市・市川

市内に7路線16の鉄道駅があり、拠点駅から半径2.5km以内に街がすっぽり納まる。

●2.5kmは自転車で15分

拠点駅周辺には商住が集積しており、どこに行くのにも自転車が便利。

一方、ラッシュ時の自転車混雑や、自転車側、車側の双方が感じる自転車運転の怖さは問題。

自転車利用を快適にして、
目指せ！自転車天国いちかわ



1. 市川中心部のこの通りを ウォーカブルな自転車通りに



●自転車快適都市のシンボル

総武線を挟み、車の幹線千葉街道と並行するこの通りを、人が中心のウォーカブルな自転車通りとし、仮称「いちかわ市民通り」と名づける。

この通りは歩行者・自転車が優先。道路の真ん中を自転車路、両端を広い歩道とし、車は通れるが速度規制して自転車の後ろを走るようにする。



ドイツの自転車通り

●路面と沿道を一体化して、楽しい移動・滞留空間をつくる

シャンゼエリア

オープンカフェで
ゆったり滞留



市川駅

広場エリア

朝市/夜イチ・イベント
賑わい広場



本八幡駅

小町通り

小道で
そぞろ歩き



細い道

パークシティ

ウォーカブルな自転車通り

コルトンプラザ

2. 行徳の生活道路を 仮称ゾーン20に (徒歩・自転車中心)



行徳の居住エリア

行徳南部は土地区画整理事業で新しくできた街。道路は広く配置も規則正しい。

通過交通を制御し車の利用を抑制して路上と沿道を一体的に活用し、新しい居住環境を創り出すことに向いている。

新しい居住環境 仮称「ゾーン20」の考え方

ゾーン30は、生活道路での歩行者や自転車の安全を目的として時速30キロの速度規制を設け、ゾーン内のクルマの走行速度や通り抜けを抑制する国の政策である。

ゾーン20は、この速度規制を時速20キロとしてさらに安全性を高め、路上と沿道を一体的に活用して、人中心の居住環境をつくらうとする試み（時速20キロ規制はヨーロッパで導入されている）

市街地で自転車利用を快適にするには、
①道路利用の再配分
②車の速度規制
の2つの方法がある。

本八幡 と行徳 で

その方法をご提案

自転車路を整備すると、今後増えてくる
免許不要の特定小型
原付の走路にもなる。



浦安の
ゾーン30プラス